

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2897600020		
法人名	株式会社 ニッケ・ケアサービス		
事業所名	グループホーム てとてニッケタウン(ダイヤ)		
所在地	愛知県あま市甚目寺町桑丸8-1		
自己評価作成日	令和4年12月15日	評価結果市町村受理日	令和5年4月4日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

看取り介護を行っており、最後までご自分らしくお過ごし頂けるよう支援している。また24時間対応の往診専門医の協力のもと、安心・安全な医療体制を整えている。地域との連携のため、空室ショートや緊急ショートにも対応している。

**※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)**

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2397600020-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2397600020-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

感染症問題が続いていることで利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームの建物が平屋で両ユニットが平面でつながっていることもあり、日常生活の中で利用者と職員がホーム内を歩く時間を設けており、利用者の身体機能の低下を防止する取り組みを継続している。食事レクやおやつレクの取り組みも行われており、利用者の楽しみにつなげている。利用者の日常生活については、定期的なホーム便りの他にも、ホームページを通じたブログでの報告が行われており、ホームでの暮らしぶりを報告しながら、家族をはじめ外部の方にホームへの理解を深めてもらう働きかけにつなげている。また、当ホームの近隣の場所に、運営法人の関連事業所として新たにグループホーム及び小規模多機能事業所の開設が予定されており、当ホームを含めた新たな交流等の取り組みが期待される。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年1月30日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ミーティング時に、職員一同理念を確認し、実践に繋げようと努めている。	運営法人の基本理念の他にも独自理念をつくり、職員間で理念を振り返る機会をつくりながら、理念の内容の共有が行われている。また、職員が目標をつくる取り組みも行い、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍であるため、積極的な地域との交流の場を持つことが出来なかった。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難になっているが、運営法人の敷地に様々なテナントが出店していることで、地域の方には知られた存在でもある。テナント店と協力した行事の開催を行う等、地域の方との交流が行われている。	運営法人の同一敷地内に、新たに関連事業所が開設されることになったため、地域の方との新たな交流等にも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍が明けた際は、認知症カフェを通し地域の方へ向けて、認知症の人への理解を深めようとイベントを行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での文面開催に、深い議論や意見は難しく感じ、率直な意見は対面での効果がやはり大きく感じる。課題解決に努めていきたいと思う。	会議については書面による実施が続いているが、会議の関係者の中には書面の配布以外にも電話を活用した意見交換を実施しており、ホームの現状を知ってもらい働きかけにつなげている。例年は、市職員の参加も得られている。	書面による会議の実施が続いていることもあるため、今後に向けた会議の再開にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議での実情の公開や、疑問や困りごとなどは、速やかに報告・相談し協力関係を築くよう努めている。	市内の介護事業所との連絡会等が開催される際には、ホームからも参加する機会をつくり、情報交換等につなげている。また、地域包括支援センターとも、研修会等の機会を通じて、情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	命に関わるため、玄関の施錠はしている。3ヶ月に一度の身体拘束廃止委員会を実施し、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、広いホーム内を利用者が自由に移動ができるような生活環境がつけられている。また、身体拘束に関する定期的な委員会や職員研修を実施しており、言葉による拘束を含めた職員への注意喚起も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	3ヶ月に一度の身体拘束廃止委員会に置いて、研修を定期的に行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度について学ぶ機会を持つように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	行き違いや誤解を招かないよう、注意点等には丁寧な説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の希望の聞き取り実現は行っているが、ご家族に置いて、運営推進会議にご参加出来ていない現状、今後意見の汲み取りを行っていききたい。	家族との交流が困難な状況が続いているが、玄関先で面会する等、現状で可能な交流が行われている。家族からの要望等については、管理者が対応し必要に合わせて苑長に報告している。毎月のホーム便りの他にもブログを活用した報告も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングや普段の出勤の中で、職員の意見や提案を聞き、改善を行いつついる。	毎月の職員会議の際には、職員一人ひとりに考えてもらう時間をつくる取り組みが行われており、職員から意見等を出してもらう働きかけが行われている。また、管理者による職員との面談の機会をつくり、職員一人ひとりの把握につなげる取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	有休消化率を8割以上消化出来るように実施している。ハードワークにならないよう、マンパワーの増加や業務改善を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本人のレベルに合わせた、社内外の研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	包括主催の勉強会には、時折参加し、情報交換をしている。GH部会が以前発足していたが、中止しているため、再開目途が立てば参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	積極的に声掛けをし、本人の不安を取り除くよう努めている。また他の入居者様とのコミュニケーションが取れるよう仲立ちし、緊張を和らげるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の希望を聞き、対応するよう努めます。また今までの介護を労い、お好きな時に面会頂けるよう、本人との継続した交流を促している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設内外を含め、ニーズを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活に伴う一連の動作を共同生活において協力を依頼している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と本人の交流を通じて、本人の心の安定に協力頂いている。毎月、本人の様子を伝えながら、時にはその問題に直接対応して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	出来るだけ、ご本人の意思に添えるよう場所や人の繋がりを継続出来るよう努めている。	現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、入居前からの関係の方がホームに訪問する等、馴染みの方との交流の機会にもつながっている。また、家族との外出についても、身内の方の葬儀に出かける等、馴染みの方との交流につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しないよう、席配置に相性を考慮したり、一緒に行えるレクリエーション等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	配偶者を失った喪失感で、その後の生活を懸念した場合、定期的に電話をしてご様子を伺うこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向を汲み取りながら、生活に反映させようと努めている。	毎月作成しているホーム便りには、利用者の細かな状況の記載が行われており、利用者の思いや意向等の把握にもつながっている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を日常の支援に反映する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報収集をカルテに書留め、全ての職員が把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ミーティングや毎月のアセスメント時に情報収集を行い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	適時、各所から意見を集め、ミーティングでの話し合いであったり、改善をしながら現状に即した介護計画を作成している。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも、1日1ページの記録用紙に細かなチェックを行いながら変化等を把握し、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の支援記録での介護計画にリンクする目標が現在に即していない場合は、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	緊急ショートだったり、子供110番や災害避難場所だったり、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍以前では、地域のボランティアにお越し頂いたり、近所の喫茶店に行ったりと顔なじみの交流に努めていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設として訪問医と契約をしており、何かあれば、即時対応して頂けるよう、24時間の医療体制を確保している。	協力医による医療面での支援が行われていることもあり、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診については、家族による対応を基本としており、ホームからも情報提供等が行われている。また、訪問看護による医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職による日常の体調の変化を、訪問看護師に伝え、訪問看護師から提携医に伝達し、提携医から訪問看護師へ指示し施設へ情報が戻る流れになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時の調整は、出来るだけ早期になるよう相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の今後想定される内容は、契約時に説明し、終末期に近づいた段階で事業所、提携医、家族の三者で再度話し合いを行い、チームで支援している。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、協力医とも連携しながらホームでの看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねながら、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	必修研修項目での訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年2回実施している。また地域との協力体制を構築出来るよう模索している。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行い、職員間での連携につなげている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。近隣の方との協力関係についても、可能な範囲で行われている。	新たに開設する運営法人の関連事業所の建物が2階建てであることで、平屋の建物である当ホームの水害時には避難先に考えることもできる。今後の事業所間での協力関係にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇委員を立て、不適切な言動はないか見直しを行っている。	基本理念には、行動指針も掲げられており、職員間で理念の確認を行いながら、利用者への対応等に関する意識向上にもつなげている。また、「てとてビューティーサロン」として、利用者のおしゃれを行う機会もつくっており、利用者の尊重にもつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が出来るよう問いかけ、希望を聞けるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望に沿いながら、ご本人のペースでお過ごし頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	行きつけの美容室への継続やお化粧の身だしなみは、継続して頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や、後片付けを職員と一緒に楽しく行えるよう支援している。	食事については、外部業者も活用しながら提供しており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。ホームのキッチンを活用した食事レクも行われており、利用者もできることに参加しながら、楽しみにつなげる取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の量が不安定時は、回数を増やして、出来るだけ摂取頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとり口腔管理を行い、出来ない方や不十分な方には、フォローを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄パターンを把握するよう努め、定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄の支援を行っている。	利用者の個人記録に排泄に関する記録を残しており、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えているが、利用者の身体状態に合わせたオムツの対応も行われている。また、排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々に応じ、薬だけでなく、お通じをよくする食物摂取を家族に依頼したり、こちらで用意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日時間は、職員体制上決めている。拒否があれば、無理をせず次回に行っている。	利用者が週2回の入浴ができるように支援が行われているが、入浴を拒む方には随時の対応も行われている。浴室に機械浴の設置が行われており、利用者の身体状態に合わせた入浴も行われている。また、季節等にも合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムを整えるために、日中適度な運動や傾眠がある方は短時間居室で静養して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しく処方された薬の効果や副反応を見るために、効果副反応をの説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	定期的に催しを企画して、入居者様の気分転換をはかり楽しんでもらっている。嗜好品は一緒に買い物へ行き、買い物支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍でもあり、外出支援は出来ない。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、季節や天候等にも合わせて、ホームの近隣を散歩する等の機会がつけられている。また、利用者の意向等にも合わせた買い物に出かける取り組みも行われており、徐々に外出の機会を増やしている。	利用者の外出の機会が限られた範囲となっていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、関連事業所の行事に参加する等、外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	可能な方は、お店に同行し、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙は、本人の希望がある限り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた飾り付けをして、季節を感じるよう配慮している。暑さ寒さを訴えにくいこともあるため、温度調整は細目に行っている。	当ホームの両ユニットが平面でつながっている利点も活かしながら、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、季節感のある飾り付けや敷地内に畑を整備する等、アットホームで落ち着いた雰囲気がつくられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご本人のペースに合わせ、自由な暮らしを支援している。相性を考慮し席の配置や他の方と話せるよう誘導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、家族の写真を置いたり、馴染みの物を置いたり、居心地よく過ごして頂いている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた使い慣れた家具類や好みの物等を持ち込む等、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中にはベッド以外で生活を継続している方もおり、利用者の状況に合わせた対応が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やフロアでは、動線を確保し、転倒リスクのある障害物は取り除くよう努めている。		